


高等部 音楽科 「希望の歌で自分と出会う」



歌は苦手、できれば歌いたくない。音楽は聴くだけでいいんだよな～

無理に歌わなくてもよい。聴くだけでもいい。いつかこれはいいなと思える音楽に出会ってほしい。歌を通して変化していく自分自身を感じてほしい。



①第一次(1年次春)

アンケートに「歌は苦手」

歌は苦手という男子生徒。聴くことは拒絶してはなくて、インストルメント曲には触れている。授業には、あくまでも授業だから参加している面があったとはいえ、準備や片付けには協力的だった。

オリエンテーションの時間のアンケートには、

聴くのはいいけど「歌は苦手できれば歌いたくない」

と率直に書かれていた。そこですぐに、

「無理して歌わなくてもいいよ」「聴くことも音楽すること」「好きじゃないと思うことは、いいなと思うものをみつけるために必要なこと。卒業するまでに1曲でもこれはいいかなと思える音楽に出会えるといいね」と返した。

②第二次(1年冬の様子)

♪筆との出会い

～演奏できる実感と面白さの気づき～

声が出てなくても、表情の変化や、参加の仕方を見て、あえて声はかけなかった。タイミングを見て、タイプの違う音楽に心地よさを感じることに、面白さを感じとれる機会を持てるようにと考えた。どこかで音楽の心地よさを体験してほしかった。その一つが筆の演奏だった。

「さくらさくら」を、漢数字の楽譜を見ながら、一音一音弦をはじめていった。初めてながらそれなりの演奏ができたことがうれしくて、

「これはいける！」

と言い、表情にもほっとした気持ちの変化が見えた。

③第三次(2年文化祭)

希望の歌・・・これはうたえるかも？

文化祭で歌う新曲にフィンランディアの旋律に新たに希望の歌詞がつけられた「希望の歌」を選んだ。

彼のみならず集団が音楽を通して何かに出会えるに違いないと期待を込めた。



さわやかな風をイメージし、フレーズを意識して歌うようにした。歌声に流れができた。歌が苦手な男子生徒がいつもの10倍程の大きな文字で

これは歌えるかも

と書いた。穏やかな音楽を心地よく感じ、受け止められたように思われた。

④第四次(2年最後の音楽の時間の振り返りと感想)

自分にとって音楽とは？？

やはり歌うのはイヤ
きくだけでいいかな・・・

と書きながらも、歌ってきた歌の中から「希望の歌」をえらび、



歌いやすい、
高い声で歌うことが
がない

と、自分がかかわりやすい音楽の特徴を分析してきた。自分の心地よさを感じ分けられ、「歌いやすい」と表現できたことがきっとこれからのつながっていくに違いない。歌が苦手なことは変わらなくても、自分にも歌えるものに出会えた気づきがあったことをともに喜びたい。